

2021年3月5日

2023年度までの100%再生可能エネルギー化(RE100)達成方針を策定

～投融資先太陽光発電所からの環境価値取得により本社ビルの実質再エネ化も実現～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、国際的なイニシアティブ「RE100 (Renewable Energy 100%)」への加盟などを通じて、保有不動産における消費電力の再生可能エネルギー化を推進しております。今般、温室効果ガスの排出量を実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現に向けた取組みを一層力強く進めるため、「2023年度までにRE100を達成する(特に当社が外部賃貸する物件(投資用不動産)は2021年度中に100%再生可能エネルギー化)」方針を決定いたしました。

RE 100

- 事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標とする国際的イニシアティブ
- 当社は2019年8月に加盟

また当社は、日本全国の約1,000万名のお客さまからお預かりした資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」としてESG投資を推進しており、「気候変動の緩和」を重点テーマに再生可能エネルギー発電事業へ積極的に投融資しています(国内外51か所・合計出力約6,500MW)。RE100達成に向けた取組みを機関投資家の側面からも促進するべく、今般、投融資先の再生可能エネルギー発電所由来のトラッキング付FIT非化石証書¹を活用した電力を、当社保有不動産に供給するスキームを構築しました。

具体的には、2021年4月より、当社の投融資先である山梨県の太陽光発電所(合同会社クリーンエナジー清里の杜²)から創出される環境価値³をトラッキング付FIT非化石証書として当社の本社ビル(日比谷本社、豊洲本社)に電気と組み合わせて供給します。投融資先の再生可能エネルギー発電所由来の環境価値取得は本邦でも事例の少ない取組みであり、今後、当社が投融資している他の再生可能エネルギー発電所に対しても本スキームを導入することで、当社の更なる再生可能エネルギー調達を推進していくとともに、責任ある機関投資家として引き続き投融資を通じた再生可能エネルギー市場の発展にも寄与していきます。

【本件スキーム(イメージ)】



¹ 非化石証書とは、石油や石炭などの化石燃料を使っていない「非化石電源」で発電された電気が持つ「環境価値」を取り出し、証書にして売買する制度。需要家は、再エネ由来のトラッキング付非化石証書(環境価値の由来となった発電所を明らかにする情報を追加的に付与した非化石証書)を調達し電気と組み合わせた場合、その電気は実質的に再生可能エネルギー由来として扱われ、RE100の取組にも活用できる。

² 「大規模太陽光発電プロジェクトへの出資について」(https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2014_005.pdf)

³ 再生可能エネルギー等による電気は、電気そのものの価値に加え、温室効果ガス排出削減する「環境価値」を有しているとみなされており、「グリーン電力証書」や「非化石価値」等がこれに該当。

【参考】太陽光発電風景(合同会社クリーンエネルギー清里の杜)



写真出所: 合同会社クリーンエネルギー清里の杜

第一生命グループは、サステナビリティを巡る課題への対応に関する取組みをこれまでも進めてきましたが、2021年4月からの新たな中期経営計画においても、これを更に強化し、様々な社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。

このうち気候変動への対応は、当社グループが位置付ける「重要な社会課題」の一つであり、本件のみならず、本日リリースにて公表している「本邦初となるネットゼロ・アセットオーナー・アライアンスへの加盟について」「新たなCO2排出量削減目標の設定について⁴」に係る取組みについても、併せて進めていきます。

当社グループは、これら気候変動への対応について、グループの特色を生かしつつ、スピード感をもって取り組んでまいります。

⁴ 第一生命ホールディングス株式会社 (<https://www.dai-ichi-life-hd.com/>) ニュースリリース